



携帯サイト QR コード

第 134 号

2022 年 10 月 1 日発行

いいいぶ



令和 4 年秋号

子宮がん検診



子宮がんで命を落とすことができない時代が来る。

私が産婦人科臨床医としてスタートしたのは、昭和 37 年ごろの事で、子宮頸がん検診が定期健診として確立したころです。早くも 60 年を超えます。

当時は、細胞診も主として「悪性腫瘍細胞があるかないか」を判定する「パパニコロ細胞診」だったものです。今では、「ベセスダシステム」で前がん状態である上皮異形性や腫瘍の質的判断を加味した診断となりました。

更には「ヒトパピローマウイルス」の子宮がん発生への関与が明らかになり現在のところでは精密検診と云う格付けですがやがては定期健診に組み入れられると考えられます。

他の臨床医学分野に先駆けて子宮頸がんワクチンが実用化され、子宮がんは予防できる時代になりました。予防ワクチンが実用化されているのは子宮頸がんだけです。

子宮がん検診と云っても子宮体がんと子宮頸がんとは多少事情が異なります。子宮体がんの場合子宮体部の細胞診なり組織診なりを行うのが子宮頸がんより多少むずかしく集団検診に向かないところがあります。

以前は特に日本人では頸がんがほとんどで、体がんは少なかったのですが生活の欧米化などから今では子宮がんの中で体がんの占める割合が多くなってきました。体がんの場合高齢者が多く、閉経後の出血が初発症状である人の占める割合が高いなど頸がんとは微妙な違いがあります。

子宮頸がんに対しては、思春期に「頸がんワクチン」を済ませます。頸がん細胞診、コルポ診、ヒトパピローマウイルスのチェックをおこないます。検診は現在より少なく数年に一度で良いでしょう。これだけ実施すれば万一微小浸潤がんや異形上皮などが見つかったとしても円錐切除や単純子宮全摘術などの縮小手術で完治します。

子宮体がんの場合は不正子宮出血があれば細胞診を行います。無症状であればエコー診で内膜の異常肥厚を発見し、内膜細胞診を行います。常日頃から以上の手順を踏めば子宮がんで命を落とすことは出来ない時代と云えましょう。

子宮がんで命を落とすことはできない時代がもう目の前です。人類の恐怖の的であった天然痘が過去の病気となったように子宮がんも過去の病気としなければなりません。

(院長 庄司 孝)



野菜を食べて 免疫力アップ

(管理栄養士 内野宮)



野菜は、ビタミン、ミネラル等の栄養素を豊富に含みます。健康な食生活をおくるのに欠かせない食品です。猛威を振っているコロナを撃退するにも、野菜は強力な威力を発揮します。推奨量の1日 350g 以上の野菜を食べることを目標にしましょう。今回は、特産品の岩国れんこんを使用した、病院食、学校給食でも人気の高い「チキンチキンれんこん」のレシピを紹介します。

チキンチキンれんこん

【材料】(2人分)

※山口県特産品

※れんこん 中 1/2 節

鶏もも肉 2cm角 80g

片栗粉 大さじ2

揚げ油 適量

濃口醤油 大さじ1/2

酒 大さじ1/2

砂糖 大さじ1/2

みりん 小さじ1/2

水 大さじ1

レモン果汁 小さじ1/2

【作り方】

- ① れんこんは1cmのいちよう切りにする。
- ② 調味料は、全て合わせて加熱しておく。
- ③ れんこんと鶏肉に片栗粉をまぶし、170℃に熱した油で揚げる。
- ④ ②と③を混ぜ合わせる。



【1人分エネルギー195kcal
食塩相当量 0.7g】

●れんこんの食物繊維には、感染症などに対する抵抗力をつける成分が含まれます。また、れんこん、じゃがいも、ブロッコリーなどに多く含まれるビタミンCは、白血球の働きを強化し、免疫力を高めます。そして、れんこんのアクにはポリフェノールの一種タンニンが含まれており、抗酸化作用があると同時に、ポリフェノールとレクチンが免疫細胞の働きを高め、免疫力をアップさせます。



パーキンソン病講演会

7月9日岩国市総合体育館 会議室にて、岩国病院と錦ホープの会主催による「第10回岩国パーキンソン病講演会」が行われました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で久しぶりの開催となりましたが、神経内科の庄司紘史先生をはじめ、当院薬剤師や理学療法士の講演、質問の時間もあり、大変有意義な会となりました。



予防接種を受けよう！！

10/1 からインフルエンザの予防接種が始まります。

費用等詳しい内容についてはお問合せ下さい。

☎(0827)41-0850



Follow Me!



Instagram

はじめました!!

マンモの日

今年はマンモの日が10月16日(日)になっています。この日は乳がん検診が日曜日に受けることができます。

